

祝 卒業

第 54 回



発行所

福島県立勿来工業
高等学校新聞委員会

いわき市植田町堂ノ作 10

電話 63-5135

FAX 62-7358

責任 努力 自立 校刊



「幸せに生きる」には

校長 深谷 茂樹

新校舎からの旅立ち

三年生に新しい校舎になって何が変わったかと尋ねたところ、一つは、校門から教室が遠くなって、毎朝遅刻しないうように走る必要が増えたこと。もう一つはきれいな床、きれいな壁、新しい机と椅子など、つねに大切に使い、日々清掃に励まなければならなくなったことだそうです。

私たちは受け継いだものやよい状態で後にのこしていくことが求められます。仮設校舎にも思い出はありますが、新校舎はこれから半世紀以上にわたり本校の学び舎となります。この新校舎を大事に使って後輩に譲ってゆく卒業生でした。



三年生の皆さん卒業おめでとうございます。皆さんは仮設校舎での学習、新校舎が完成してからはそこでの学習と、環境が大きく変化する中で三年間過ごしました。そのような環境の中にあつても学習や部活動に熱心に取り組み、素晴らしい成果を収めました。その努力に心から敬意を表します。

卒業に当たって、皆さんに「幸せに生きる」ということについて述べたいと思います。

まず、「働き、自立する」ということです。卒業生の皆さんは、就職する人、進学する人それぞれにこれからの人生を歩んでいきますが、いずれは全員働くこと

になります。働くことによって収入を得て経済的に自立し、家族を養い、今の社会を次世代に繋いでいくことは、私たち人間の行うべきことも基本的なことです。

働くことは、これは主婦として家庭の仕事をすることも含め、どのような職業であれ、社会参加であり、世の中のためになり、そしてそのことにより報酬を受け取る行為であることを改めて認識してほしいと思います。このことは本校でのキャリア教育をはじめとした毎日の学習から学んでいるはずですが、

社会的に自立して日々を過ごすとき、経済的な豊かさが必ずしも幸せにつながるとは限らないということを心に留めてほしいのです。もし自分に力があれば経済的に豊かになるでしょうし、もしそれほどでもないければ貧乏に甘んじることもあるでしょう。しかし、経済的に豊かであっても心に豊かさがなければ幸せとは言えません。だからこそ、日頃から「正直に誠実にそして努力を惜しまずに」生活をしてほしいと思うのです。「嘘をつかずルールを守ること」これさえきちんとしてきていれば、どのような人生を送っていても、後ろめたない気持ちになることもなく、人に後ろ指さされることもありません。

さらに、誠実に人と接し、正しく生きる努力を惜しまなければ、自分の生き方に自信を持って胸を張って堂々と生きてゆけます。

経済的に豊かかどうかに関わりなく、これが幸せの第一歩であると確信しています。卒業生のみならず働いて自立し、正直に誠実にそして努力を惜しまずに生活して幸せな人生を歩まれることを心からお祈りします。

小・中学生との交流

今年度、専門高校における小・中学校との連携事業が行われました。これは、小・中学校と高校間の交流を深めることが目的です。11月10日(火)に本校から勿来第二小学校へ出かけ、12日(木)に勿来二小の6年生33名が本校を訪れました。12月9日(水)には勿来第二中学校へ出かけ、11日(金)には勿来二中の1年生が訪れました。



本校からの訪問では、パソコンを使って各科の紹介をしました。本校への訪問の際は、小・中学生が少人数のグループに分かれ、20分程の体験実習を行いました。機械科は真ちゅうを素材としてキーホルダー製作、電気科は白熱灯の電気工事実習、電子科はパソコンでの名刺作成、建築科は



透視図や設計図の描き方、工業化学科は液体窒素や中和滴定の実験と、工業高校の特色を生かした内容でした。小・中学生は積極的に取り組み、指導係の高校生と活発に意見を交換していました。

今後もこの事業が続けば、勿来工業高校は今以上に地域に根ざし開かれた学校になっていくと思われました。訪問してくれた小・中学生が工業高校での学習に魅力を感じ、将来本校に進学してくれることを期待しています。

第一印象を決める スーツ着こなしセミナー

12月11日(金)、3年生向けのスーツ着こなしセミナーが行われた。(株)コナカ湯本店の店長さんらが、サイズ選びや着こなし方を解説してくれました。

代表者の皆さんがスーツを着て、その姿を見ながら説明してくれたので分かりやすかった。小物で気をつけることは、ネクタイの締め方や長さ、ベルトの種類、ベルトと靴下の種類、色を合わせることにそうだ。社会では当たり前第一印象を



課題研究発表

機械科A組

- ◆1班 ①大人用三輪車 ②田中 哲也 先生
- ③私たちは自分たちで何を作るかを考えて、大人用三輪車を製作しました。廃棄自転車やもらい物の車用のシート、さらに一輪車と台車を購入して作りました。全員で力を合わせて作業に取り組みが出来ました。塗装も上手くいき、きれいに仕上がる事ができとても満足です。(佐藤 競)
- ◆2班 ①トライク製作 ②藤村 靖 先生
- ③私たちは、原付バイクを加工し必要な部品などは自分達で作って、バイクを製作しました。初めはミスが多くて完成するの心配でしたが、全員で協力して完成させる事が出来てよかったです。実習以上に難しい作業などがあり機械の奥深さを知ることが出来ました。(本間 徹大)

①タイトル ②指導教員 ③感想()内は代表氏名

- ◆4班 ①四人乗り自転車 ②小野田 義彦 先生
- ③私たちの班は、捨てられていた自転車を使い、学校にあった鉄材等を利用して四人乗り自転車の完成を目指して作業を行ってきました。本来捨てられていた物をリサイクルし、作品として作る事ができたので、どんな物でも利用することができると学びました。(金成 昌幸)
- ◆5班 ①スターリングエンジン ②永山 一生 先生
- ③私たちの班は、最初、工作機械の操作方法を学びながら、スターリングエンジンの部品を作っていました。このとき、手作業の方が想像以上に難しいことを改めて実感しました。放課後も利用して作業しましたが、思うようには上手くいきませんでした。しかし、とても良い経験になりました。(大関 歩)



- ◆3班 ①新校舎の模型製作 ②渡邊 昌明 先生
- ③私たちの班は、アルミを使用して新校舎の模型を製作しました。みんなで協力し合っているいろいろな作業を行いました。中でも大変だったのは、アルミのバリを取るところです。み

- ◆6班 ①電動スケボー ②国分 廣通 先生
- ③私たちの班は、動力付きスケボーを製作しました。大変な作業が多くありましたが、皆で協力し作業に取り組んでできました。中でもモーターの動力をどうやってタイヤに伝えるか苦労しました。皆で相談し先生の協力もあり、良い作品を作ることができて良かったです。(数馬 圭吾)

機械科B組

- ◆1班 ①ギブスキャム ②大町 篤志 先生
- ③私たちの班は、ギブスキャムというあらゆる加工に対応したソフトを使い課題研究を進めてきました。短い時間内で完璧に使いこなすことはできなかったが、新しい発見や可能性を見つけたことができました。新しいことに挑戦するのは不安でしたが、とても良い経験となりました。(今井 雅人)

①飛行原理の学習と飛行機製作 ②佐藤 悦弘 先生

- ◆2班 ①飛行原理の学習と飛行機製作 ②佐藤 悦弘 先生
- ③私たちの班は、飛行機が飛ぶための原理について研究し、実際に自分たちの手で簡易的な室内飛行機を製作しました。最初はなかなか思い通りに飛ばず大変でしたが、みんなで協力し合い飛ぶまでになったので良かったです。(荻野 和真)
- ◆3班 ①赤べこの製作 ②佐藤 幹啓 先生
- ③私たちの班は、学校にある廃材を利用して福島の伝統工芸品である赤べこを作りました。作成した赤べこはキャスターを取り付け、走行できるように工夫しました。班員全員で一つの作品を作り上げることができたので、とても良い経験になりました。(高橋 一希)

- ◆4班 ①ピッチングマシン&サイクロン集塵機 ②根本 守 先生
- ③私たちの班は2つのテーマを選び、作成しました。ピッチングマシンは、自転車の部品や数々の機械を使用して作り直さず、回収するために機械で出る切りくずを回収するために協力して作り、創意工夫しながら完成させました。2つとも欠点はありますが、完成させることができました。(高木 将太)



- ◆5班 ①車椅子の製作 ②佐藤 大輔 先生
- ③私たちの班は、車椅子の製作を行いました。人が乗っても壊れないように、タイヤなどを溶接して補強するのが大変で、何回も失敗しました。しかし、

芸術鑑賞会

和太鼓ユニット「風神」

迫力ある演奏に大喝采

3年に1度の芸術鑑賞会が、11月13日(金)に開催された。今回は、現代風にアレンジされた和太鼓と尺八の演奏だった。

和太鼓ユニット「風神」(石井明仁、佐々木彬、橋本美和、堀越唯人)の4人と尺八奏者の岩田卓也がお囃子で体育館に入場すると、会場はお祭りの雰囲気になった。一瞬にして観客の心をつかみ、尺八での校歌演奏やお鍋で盛り上がる最高潮に達した。



和太鼓ユニット「風神」の演奏風景。観客の心を掴み、尺八での校歌演奏やお鍋で盛り上がる最高潮に達した。

「心躍る演奏に力をももらった」という生徒会長のお礼の言葉は、その場にいた観客全員の感動を十分に表わすものだった。



和太鼓ユニット「風神」の演奏風景。観客の心を掴み、尺八での校歌演奏やお鍋で盛り上がる最高潮に達した。

思春期の性の問題を考える

12月4日(金)、1、2年生対象に思春期の性に関する講演会が開催された。家庭教育インストラクターいわきの会の坂本節子さんが、高校生に理解しやすい言葉で「性」について話してくれた。「デートDV」については、お手伝いで学年の代表者が劇を演じてくれた。高校生

の何気ない言動から加害者、被害者になっていく様子が良く伝わってきた。性に関する問題を起こさないためには、自分に自信を持つことが欠かせない。自分を支えてくれる家族や友達に在に気付き、自分を好きになれば、人を大切にすることができる。しかし、もし問題が起きてしまったら、自分達だけで解決しようとせず周りの大人に相談するという行動も欠かせない。

今回の講演を聞いて、人々がっていくのだと思った。



思春期の性の問題に関する講演会の様子。

皆と協力して最後まで試行錯誤を繰り返して、職員全員で納得のいく作品を完成できて良かったです。(杉田 夏希)

電気科

- ◆6班 競技大会への参加
 - ①新妻 宏郁 先生
 - ②私達は、二つの事に挑戦しました。一つは、十月のロボット競技大会に向けてロボットを製作しましたが、大会では残念な結果に終わりました。次に参加した十一月のマイコンラリーでは、二人ともベスト16に入ることができましたが、悔しさが残りました。しかし、とても良い経験となりました。(猪狩 佑太)
- ◆1班 電動キックボード
 - ②高橋 利幸 先生
 - ③私達の班では電動キックボードを完成しました。原動力は電動ドリルを使い、ギアとチェーンをキックボードに取り付け、自動で動くようにはしました。最初は作業があまり進まなかったが、最終的には目標のモノを作ることが出来て良かったです。(小笹 晃平)
- ◆2班 打倒E3!! 息子救出作戦
 - ②齋谷 理人 先生
 - ③私達は、レーザー銃と標的を作りました。レーザーを標的に当てるとランプが点灯するという内容です。この課題研究で得たことは皆で協力する大切さと電気科で学んだ知識を活かして、物作りすることの楽しさです。社会に出てこの経験をいかしていきたいです。(大城戸 翔)
- ◆3班 劇的ピアノアフタートーマス
 - ①鈴木 一郎 先生
 - ③私達の班は、昨年の先輩たちが作成したトーマスをレール式からタイヤ式にして、ライントレスして走らせようと思い、作成に取りかかりました。しかし、思うように製作が進みませんでした。ライントレスは出来ませんでした。走行出来るようになり良かったと思えます。課題研究で学んだことを今後の人生に役立てていきたいです。(長正 大)

◆4班 ビンボールストライク
 ②佐藤 智美 先生
 ③対戦型のピンボールを製作しました。ボタンを押す圧力に応じてフリックバーが開閉します。ゴールを決められると感電するなど工夫しました。担任と7人の動物たちがモンスターストライクをまねた動画を作成するなど、指導者、生徒がプライドを捨てて、楽しめるもの」を追求した課題研究です。(市川 航大)

電子科

- ◆1班 ホバークラフト
 - ②山田 浩 先生
 - ③私達の班は、ホバークラフトの製作を行ないました。ホバークラフトの骨組み作りで結構な時間を使ってしまった、大変でした。そのためテストをする時間や改善する時間が少なくなり、初めに製作したものは失敗に終わりました。もう少し時間を考えれば良かったのかなと思いました。(市橋 悠人)
- ◆2班 インドアブレイン
 - ②青木 亨 先生
 - ③私達の班は、インドアブレインに、電子部品を取り付け、赤外線飛ばすことを目標に日々頑張っていました。また、ものづくりの楽しさを知りました。良い作品ができるよう、引き続き頑張ります。(草野 尚樹)
- ◆3班 電子オルゴール製作
 - ②石橋 達哉 先生
 - ③私達の班は、電子オルゴールを作りました。しかしそれだけでは音が小さすぎて聞こえづらかったため、スピーカーの音を大きくするために増幅回路を作りました。電子オルゴールのみでは少ないと思ったので、電子オルゴールを鳴らすための仕掛けをみんなで工夫して製作しました。(大平 匠熙)
- ◆4班 ラズベリーパイでカメラを作ろう
 - ②石田 和之 先生
 - ③私達の班では、ラズベリーパイという名刺サイズのコンピュータを利用し、デジタルカメラを製作しました。3つのグループに分かれ製作完了し完成させることができました。自分たちで身近にあるものを作ることができ、とても良い経験をする事ができました。(高橋 凌)
- ◆5班 ゲームクリエイト
 - ②戸井田 耕治 先生
 - ③私達の班は、様々な方法でゲーム製作をしました。製作にも構想にも時間がかかったり、班員がそれぞれうまく動かなかつたりと、数々のトラブルがありました。なんとか形にすることができました。チームで



電子科の生徒と教員の合影。

隣の文化部 吹奏楽部



音楽室から聴こえる楽器の音色、指揮者にあわせて生徒が曲を奏でている。今回は吹奏楽部にお邪魔した。

部員数は現在2年生が男子5人、1年生が男子3人の8人で、毎日活動している。その中には、高校になって吹奏楽を始めたメンバーもいる。D科2年の川村



拓也君は、「中学では吹奏楽部がなかったため、卓球部に所属していました。しかし、顧問の小野先生が音楽祭の時に中学校に来てくれて、吹奏楽団『凜』の一員として演奏を披露してくださいました。その時に初めてさまざまな楽器を見て、さらにその楽器で奏でられた曲はとて

今年のお書評

『シャーロックホームズ 最後の挨拶』

(アーサー・コナン・ドイル 新潮文庫)

この本は短編集です。今回はその中の「悪魔の足」という話を紹介します。

大きな事件続きで体調を崩したホームズは、友人ワトソンとともに、ある地方に静養に訪れます。しかしそこでも事件はホームズを休ませてはくれません。のちに「コーンウォール地方の恐怖」と呼ばれるようになる事件を持ち込んだのは、地元牧師ラウンドハイと資産家のモーターマーでした。モーターマーは、実家で三人の家族との夕食を終え、自宅へと帰ります。しかし翌朝、再び実家へ戻ると兄弟二人は正気を失い、妹は死亡していました。し

かも三人とも何か恐ろしい思いをしたような、ひきつった顔をしていました。…一体何があったのでしょうか。

ホームズは緻密な推理で、その謎を解き明かしていきます。

この作品の見所は、捜査の途中、ホームズがある実験をするのですが、その際自分だけでなく、ワトソンの身まで危険にさらしてしまうことです。そのことでホームズが珍しく心のこもったお詫びと感謝の言葉をかけ、ワトソンを感動させるという二人の友情が感じられるシーンがとて感動的です。

シャーロックホームズシリーズは、推理小説を読んだことが

も素晴らしい感動しました。自分も楽器を演奏してみたいと思うようになり、高校で吹奏楽部に入学しました。ときっかけを話してくれた。

吹奏楽部は12月27日の定期演奏会まで、3年生男子5人も一緒に練習をしていた。「3年生と最後の素晴らしい演奏を披露することができました。更に30名以上の賛助の方々から演奏に協力していただき、立派な演奏会を行うことができました。」と、1・2年生の部員の皆さんが定期演奏会の感想を述べてくれた。

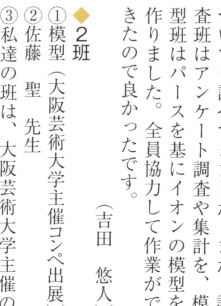
来年度は是非これまでより上の大会を目指して、練習を積み重ねていきたいと部員一同考えているという。顧問の小野竜哉先生、猪狩俊夫先生、櫻村泰樹先生のご指導のもと、目標に向かって頑張っている姿が印象的な吹奏楽部だった。



ない人でも簡単に読める上に、面白いので、是非読んでみて下さい。

(文芸部 R)

他にも『6時間後に君は死ぬ』(高野和明)『魔法科高校の劣等生』(佐島勤)『ソード・アート・オンライン』(川原礫)など、文芸部員が書いた紹介文が図書館に掲示されています。是非、ご覧ください。



一つのことに取り組み難しさを身をもって知り良い経験になりました。(園部 充)

◆6班

①ゴーカート製作
②戸井田 耕治 先生

③私達の班は、ゴーカートを製作しました。フレームにタイヤを取り付けることから始まりモーター、バッテリーを付けついで走れるところまで作る事ができました。途中でいろいろトラブルがありました。みんなで協力して素晴らしい作品を作ることができて良かったです。(高萩 淳矢)

◆7班

①プラネタリウムの製作
②志賀 敏子 先生

③私達はプラネタリウムを製作しました。部品をインターネットで集めたプラネタリウムの球に穴をあけました。班員全員で力を出し合って作業に取り組みすることができて良かったです。照度の調整などもしっかりと良いものができたと思います。(馬上 遼太)

建築科



◆1班

①小名浜港背後地と既存商店街のまちづくりに関する調査・研究
②吉田 智洋 先生

③私達の班は、小名浜港背後地にイオンモールいわか小名浜ができることを知り、その周辺のまちづくりについても調べてきました。また、調査班はアンケート調査や集計を、模型班はパースを基にイオンの模型を作りました。全員協力して作業ができたので良かったです。(吉田 悠人)

◆2班

①模型 (大阪芸術大学主催コンペ出展)
②佐藤 聖 先生

③私達の班は、大阪芸術大学主催の「世紀のダ・ヴィンチを探せ」の建築部門に参加しました。「武道館に子供たちが遊べる場を」をテーマに、入選を目指して皆でアイデアを出し合い課題に取り組みました。結果は「特別賞」を受賞することができました。班の皆には感謝しています。(菊地 悠介)

◆3班

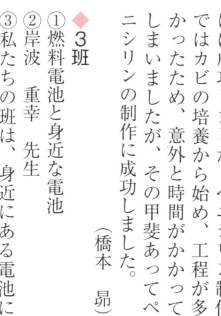
①CAD
②長谷川 秀平 先生

③建築物の設計をテーマに、なぜ必要なのか、どこにどう造るのかを考え、班または個人で建築物を設計しました。スケッチアップ(立体的に表現するソフトウェア)を活用し、CAD班全員が一生懸命、課題に取り組みました。(水野 寛七)

◆4班

①椅子などの制作
②佐藤 秀生 先生

③私達の班は技能検定試験に向けて木材の加工などを行いました。先生の指導の下で日々努力し検定に向けて頑張りました。他には、植田の歩行者天国で販売する椅子を作成するなどもとても良い経験になりました。(澤田 敏生)



◆1班

①身近な化学実験
②猪狩 俊夫 先生

③身近な化学実験として、持てる水発光実験、ダイラタンシーの3つの実験をやりました。簡単だと思っていたのですが、意外と難しく、みんなで意見を出し合い協力して実験を行うことができたので良かったです。(鈴木 基哉)

◆2班

①ベニシリンと昆布紙制作
②白石 香 先生

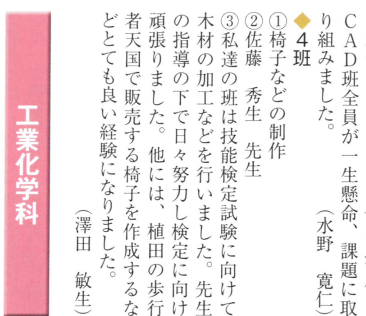
③私達の班はベニシリン制作と昆布紙制作を行いました。昆布紙制作で最初の数回は失敗しましたが最後には成功しました。ベニシリン制作ではカビの培養から始め、工程が多かったため、意外と時間がかかってしまいました。その甲斐あってベニシリンの制作に成功しました。(橋本 昂)

◆3班

①燃料電池と身近な電池
②岸波 重幸 先生

③私達の班は、身近にある電池に

工業化学科



◆4班

①椅子などの制作
②佐藤 秀生 先生

③私達の班は技能検定試験に向けて木材の加工などを行いました。先生の指導の下で日々努力し検定に向けて頑張りました。他には、植田の歩行者天国で販売する椅子を作成するなどもとても良い経験になりました。(澤田 敏生)

◆5班

①おもしろ化学実験
②紺野 真裕 先生

③私達の班は、BZ反応のど館作りと触れる水の3つの化学実験をしました。何度か失敗しながら、実験操作を改善していきました。結果的にすべて成功とはいきませんが、最初よりはだいぶ良い結果になりました。自分達で考え、改善点を実行することを学ぶことができました。(下部 友妃)

◆6班

①炎色反応を利用したキャンデル制作
②安藤 伸一 先生

③私達の班は炎色反応を利用したキャンデルの制作をしました。炎色反応をキャンデルで再現することはできませんでしたが、燃焼時間が短いなどの改善点がたくさんありました。班員全員が協力して実験できたのは良い経験です。楽しく実験することができました。(田中井 樹耶)



◆3班

①燃料電池と身近な電池
②岸波 重幸 先生

③私達の班は、身近にある電池に興味を持ち、自分たちでも電池を作りたいと思います。この実験に取り組みました。予想していた結果と大きく違ったり、結果そのものがなかったりと、さまざまな失敗などがありました。最後まで協力することができて良かったです。(箱崎 裕季)

◆4班

①河川水の水質調査
②小林 幸治 先生

③河川の水質調査を行いました。なぜこの内容にしたかという点、私達が普段見ている川がどれくらいきれいかわた目以外にどれくらい汚染されているかという事が気になったからです。さまざまな測定を行ったので良い経験になったと思います。(松本 海斗)